

2025年度 北陸大学一般選抜(本学独自方式)A日程問題

(2月3日実施)

日 本 史

(注 意)

1. 問題冊子は本文6ページ、問題Ⅰ～Ⅲ、解答数24。
2. 解答用紙はマークシート1枚、解答は各解答欄に、当てはまる
選択肢の枠内をぬりつぶすこと(複数解答は無効)。
3. 解答用マークシートは、持ち帰ってはならない。
4. 試験終了後、問題冊子は持ち帰ること。
5. コピー及び二次利用は行わないこと。

【I】次の文章を読んで、以下の問いに答えなさい。

藤原（ i ）家の冬嗣の子である良房は、842年に起こった政変などで権力を握り、858年に清和天皇が幼少で即位すると、天皇の外祖父として臣下で最初の摂政となり、政務を代行した。さらに良房の養子の基経は、884年の光孝天皇即位とともに天皇の政務を補佐する関白に就任した。

10世紀にはいり、醍醐・村上両天皇は摂政・関白をおかずに親政を行った。しかし、醍醐天皇の時、藤原時平が対立する菅原道真を（ A ）へ左遷し、両天皇のあいだに相当する朱雀天皇の代には、藤原忠平が摂関に就任するなど、藤原（ i ）家の権力掌握は順調にすすんだ。そして969年の（ B ）の変以後は、摂政・関白が常置されるようになり、藤原（ i ）家の中でも摂政・関白を出す家柄は摂関家とよばれた。

藤原道長は、摂関家一族の争いをおさめ、4人の娘を次々と皇后や皇太子妃とし、30年間にわたり、国政の中心で権勢をふるった。その子の（ C ）も、およそ半世紀間、3代の天皇の摂関として大きな権力を維持した。このように、摂政・関白が国政を中心的に動かし、その一族が主要な官職を独占した10世紀後半から11世紀頃までを摂関時代という。

摂関時代でも国政は従来どおり太政官を中心に行われたが、政務そのものは先例や儀式を重視した形式的・保守的な内容に終始し、新しい政策はほとんど行われなくなった。さらに地方政治では、その実権が諸国の国司に委ねられていった。1019年の、刀伊の入寇の際も、中央の朝廷や貴族は動揺するばかりで適切な対応がとれず、藤原隆家らがこれを退けた。

摂関時代の頃には、地方政治も大きく転換した。以前からみられていた農民層の貧富の差が拡大し、浮浪・逃亡も繰り返されて、戸籍・計帳による農民の把握がますます難しくなった。また土地不足のため政府による班田収授も次第に実施されなくなった。こうした状況に対し、政府は国司に徴税に関する大きな権限を委任した。そこで国司は、課税の対象を人間から土地へと転換し、税収を確保しようとした。こうして諸国の公領（国衙領）は次第に国司の私領に近いものとなり、官職としての国司は中流以下の貴族にとって利権の多い魅力あるものになっていった。さらに、国司に任命されても、任地に赴任せず、（ ii ）を派遣して国務を処理させる（ iii ）の制度が公認されると、上級貴族にとっても国司が利権的な職となった。一方、任国に赴いた受領国司の多くは、あらゆる手段で私腹を肥やそうとしたため、在地の人々と対立し、たびたび紛争をおこした。

問1 （ i ）に共通してあてはまる語句を、下の選択肢から1つ選びなさい。

（マークシート解答欄1）

1. 南 2. 北 3. 式 4. 京

問2 （ A ）にあてはまる地名を、下の選択肢から1つ選びなさい。

（マークシート解答欄2）

1. 佐渡 2. 隠岐 3. 大宰府 4. 鹿児島

問3 (B) にあてはまる年号を、下の選択肢から1つ選びなさい。

(マークシート解答欄3)

1. 安和 2. 承和 3. 天慶 4. 承久

問4 下線部アの人物について、この人物の栄華を記した書物を、下の選択肢から1つ選びなさい。

(マークシート解答欄4)

1. 徒然草 2. 源氏物語 3. 枕草子 4. 小右記

問5 (C) にあてはまる人物名を、下の選択肢から1つ選びなさい。

(マークシート解答欄5)

1. 藤原薬子 2. 藤原鎌足 3. 藤原頼通 4. 藤原定家

問6 下線部イについて、この出来事の説明として適切な文を、下の選択肢から1つ選びなさい。

(マークシート解答欄6)

1. 百済の援軍要請を受けた倭国は、救援の兵を朝鮮に送ったが、白村江で大敗した。
2. 坂上田村麻呂は、蝦夷勢力の拠点である胆沢城を制圧した後、鎮守府を胆沢城に移した。
3. 大陸の沿海州にいた女真族が、突然 50 余隻の船で対馬・北九州沿岸などを攻撃した。
4. 元が、高麗軍と合わせて約 3 万の軍勢で対馬・壱岐を攻め、北九州に来襲した。

問7 (ii)・(iii) に入る語句の組み合わせを、下の選択肢から1つ選びなさい。

(マークシート解答欄7)

1. 衛士・出挙 2. 目代・遥任 3. 目付・成功 4. 雑徭・重任

問8 下線部ウについて、下の4つの文は、この時期に起こった紛争や対立について述べたものである。適切な文を下の選択肢から1つ選びなさい。

(マークシート解答欄8)

1. 尾張国の国司が、その暴政を郡司・百姓から太政官に訴えられ、解任された。
2. 地頭や荘官らの圧迫に対して、名主を中心に抵抗する動きが活発になってきた。
3. 山城国の南部では、国人が農民を巻き込んで一揆をおこし、自治を実現した。
4. 近江坂本の馬借たちが、飢饉などの社会不安の中、徳政を求めて蜂起した。

【Ⅱ】次の文章を読んで、以下の問いに答えなさい。

戦国の動乱の中で、はじめて統一政権としての基礎を築いたのが、織田信長であった。信長は、尾張守護代の一族出身で、比較的京都に近く、生産力の高い濃尾平野を領国とし、地理的・経済的条件に恵まれていた。

その信長が一躍天下に注目されるようになったのは、1560年の（ A ）であった。信長は、大軍を率いて西進する今川義元を奇襲で破り、今川氏の人質であった松平元康（徳川家康）と同盟を結んで、東方のおさえとした。1567年には斎藤竜興を打倒して、居城を清州城から稲葉山城（岐阜城と改名）に移した。また、「天下布武」の印判を使用し、武力による統一への意思を明らかにした。

信長は、翌1568年、（ B ）を奉じて上洛し、彼を15代将軍とした。しかし、信長の勢力が強大になると、彼は浅井・朝倉らと結んで信長を除こうとはかった。そこで信長は、これを姉川の戦いで破り、1573年には、彼を追放して室町幕府を滅ぼした。また、反抗する仏教勢力にも積極的に対応した。こうして信長は、中世的な権威を次々に否定した。

信長は、領地を拡大するたびに指出検地を行い、関所の撤廃や楽市令を発するなど商工業の発展にも力を入れた。また、自治都市の（ C ）を屈服させて直轄の都市とし、琵琶湖近くに大きな天守を有する安土城を築いて本拠とした。信長は、1582年、中国地方の毛利輝元を討つために自ら出陣したが、その途中、京都で家臣の謀反にあい、志なかばにして倒れた。

信長のあとを継いで、統一事業を完成させたのが羽柴秀吉であった。毛利攻めのさなか、いち早く家臣の謀反を知った秀吉は、ただちに京都にかえり、謀反をおこした信長の家臣を討った。翌1583年には信長の重臣である柴田勝家を破り、信長の後継者としての地位を固めた。1584年には、小牧・長久手の戦いで徳川家康と敵対したが、ほどなく和議を結んで家康の協力を得ることに成功した。そして、1585年には関白、その翌年には太政大臣に就任し、（ D ）天皇から豊臣の姓を授けられた。

秀吉は、戦闘の停止をよびかけるとともにその裁定を秀吉が決することを強制した。これをもとに、島津義久や北条氏政を攻め、また東北の諸大名をも従えるなど、ここに全国統一を完成させた。

問1 （ A ）にあてはまる合戦名を、下の選択肢から1つ選びなさい。

（マークシート解答欄9）

1. 賤ヶ岳の戦い 2. 桶狭間の戦い 3. 山崎の戦い 4. 長篠の戦い

問2 （ B ）にあてはまる人物名を、下の選択肢から1つ選びなさい。

（マークシート解答欄10）

1. 足利義昭 2. 足利義満 3. 足利尊氏 4. 足利義政

問3 下線部アについて、信長の対応にあてはまらないものを、下の選択肢から1つ選びなさい。
(マークシート解答欄 11)

1. 延暦寺を焼き討ちにした。
2. 伊勢長島の一向一揆を壊滅させた。
3. 石山本願寺を屈服させた。
4. 日蓮宗の信者を追い払った。

問4 (C) にあてはまる都市名を、下の選択肢から1つ選びなさい。
(マークシート解答欄 12)

1. 奈良
2. 堺
3. 尾張
4. 近江

問5 下線部イについて、この出来事に関する適切な語句の組み合わせを、下の選択肢から1つ選びなさい。
(マークシート解答欄 13)

1. 中尊寺—藤原秀衡
2. 大覚寺—北条高時
3. 本能寺—明智光秀
4. 南蛮寺—高山右近

問6 (D) にあてはまる天皇の尊号(天皇の名前)を、下の選択肢から1つ選びなさい。
(マークシート解答欄 14)

1. 後鳥羽
2. 後陽成
3. 後小松
4. 後亀山

問7 下線部ウについて、これを何というか。あてはまるものを下の選択肢から1つ選びなさい。
(マークシート解答欄 15)

1. 徳政令
2. 刀狩令
3. 分地制限令
4. 惣無事令

問8 下線部エについて、秀吉の諸政策としてあてはまるものを、下の選択肢から1つ選びなさい。
(マークシート解答欄 16)

1. キリスト教を保護して南蛮貿易を奨励した。
2. 佐渡の金山、生野・石見の銀山などを領有した。
3. 石田三成、浅野長政らを五大老として政務を分担させた。
4. 博多・京都・加賀などの重要都市を支配下に置いた。

【Ⅲ】次の文章を読んで、以下の問いに答えなさい。

朝鮮半島で休戦が成立した後も、東西二大陣営の対立という構図は変わらず、米・ソの両国は、核兵器の開発競争にしのぎを削った。しかし、1950年代半ばには、この競争がゆきづまり、ソ連のフルシチョフ首相がアメリカのアイゼンハワー大統領に平和共存を呼びかけ、東西対立は緩和するかに見えた。

また、この頃になると、東西各陣営内でも関係が流動化し始めた。西側諸国の間では、1958年に発足したEECが1967年にECに発展して地域的結束が強化された。一方、(A)はNATO軍から離脱し、中国と国交を樹立するなど、独自の外交を追求し始めた。西ドイツや日本は驚異的な経済成長を遂げ、アメリカ経済の圧倒的な地位を脅かすようになった。

東側諸国間では(i)とソ連の対立が表面化し、(i)は次第に独自の社会主義の建設を目指す動きを強めて、やがて文化大革命へ突入した。東ヨーロッパでもチェコスロヴァキアやハンガリーで民主化運動が起こるなど、ソ連離れの動きが見られた。新興の第三世界諸国の台頭もめざましく、1955年には、中国の周恩来とインドのネルーが主導して、(B)がインドネシアのバンドンで開かれ、反植民地主義と平和共存を謳い上げた。日本も代表を送り、これらの諸国との関係強化のきっかけをつかもうとした。

その一方で、独立を取り戻した日本が、内外両面でどのような路線を歩むのかは、世界の注目の的であった。吉田茂の自由党は、独立達成後の総選挙でも単独過半数を維持し、引き続き政権を担当して親米路線を続けた。第3次吉田内閣は、経済復興を最優先課題としたが、アメリカの強い要求や保守勢力の一部にある独立の完成を求める声におされた結果、自衛力を次第に増加させて、(ii)を(iii)に改組した。国内の治安の面では、1952年の血のメーデー事件をきっかけに、破壊活動防止法が制定され過激な政治活動の取り締まりを強化した。社会・共産両党の左派勢力はこのような動きを「民主化に対する「逆コース」と見て強く反対した。他方で、日本社会党は1951年に平和・安保両条約をめぐる意見の対立から左と右に分裂して勢いを失ったが、やがて勢力を盛り返した。こうして、自由民主党とともに二大政党制と呼ばれる体制が出来上がったが、この政治的対抗の構造を一般に「5年体制」とよんでいる。尚、ソ連との国交の回復については、交渉は難航したが、1956年に日ソ共同宣言が調印され、国交が正常化した。

問1 (A)にあてはまる国名を、下の選択肢から1つ選びなさい。

(マークシート解答欄 17)

1. イギリス 2. フランス 3. スペイン 4. イタリア

問2 (i)に共通してあてはまる国名を、下の選択肢から1つ選びなさい。

(マークシート解答欄 18)

1. 中国 2. ビルマ 3. 韓国 4. ベトナム

問3 (B) にあてはまる語句を、下の選択肢から1つ選びなさい。

(マークシート解答欄 19)

- | | |
|--------------|---------------|
| 1. ポーツマス条約 | 2. カイロ宣言 |
| 3. カンボジア和平協定 | 4. アジア＝アフリカ会議 |

問4 (ii)・(iii) にあてはまる適切な組み合わせを、下の選択肢から1つ選びなさい。

(マークシート解答欄 20)

- | | |
|-------------|--------------|
| 1. 保安隊・警察予備 | 2. 警察予備隊・自衛隊 |
| 3. 保安隊・自衛隊 | 4. 警察予備隊・保安隊 |

問5 下線部アについて、これに関連して各地で米軍基地反対闘争が展開された。この闘争の場所に
あてはまる地域(地区)を、下の選択肢から1つ選びなさい。(マークシート解答欄 21)

- | | | | |
|-------|-------|-------|-------|
| 1. 若狭 | 2. 魚津 | 3. 柏崎 | 4. 内灘 |
|-------|-------|-------|-------|

問6 下線部イについて、この時の総裁は誰か。あてはまる人物名を下の選択肢から
1つ選びなさい。(マークシート解答欄 22)

- | | | | |
|---------|---------|--------|---------|
| 1. 佐藤栄作 | 2. 鳩山一郎 | 3. 岸信介 | 4. 池田勇人 |
|---------|---------|--------|---------|

問7 下線部ウについて、下の4つの文は、この体制に関係する説明文である。不適切な文を
下の選択肢から1つ選びなさい。(マークシート解答欄 23)

1. 日本社会党は、左派右派を合わせて156議席を獲得した。
2. 日本社会党に対抗して、自由党と民主党が合同した。
3. 時の内閣は国体明徴声明を発して天皇機関説を否認した。
4. 保守・革新の議会での勢力は、ほぼ2対1であった。

問8 下線部エについて、下の4つの文は、この時期の国際関係についての説明文である。
不適切な文を下の選択肢から1つ選びなさい。(マークシート解答欄 24)

1. 日本は、ソ連が日本の国際連合への加盟反対を取り下げたため、国連に加盟した。
2. 中国は、日ソ共同宣言の調印に影響を受けて、日本や大韓民国と関係を回復した。
3. 日ソ共同宣言は、北方領土問題を棚上げにしたまま調印され、国交が正常化した。
4. この時の内閣は、戦後賠償問題の交渉について、フィリピン協定を成立させた。

